

日本コミュニケーション学会九州支部  
第32回大会

The Japan Communication Association  
Kyushu Chapter  
The 32nd Annual Convention

大会テーマ：コミュニケーション力 再考

Convention Theme: Communication Competence Revisited

2025年11月29日(土)  
November 29th (Sat), 2025

開場：沖縄産業支援センター 研修室304

Zoom (ハイブリッド)

Okinawa Sangyou Shien Center

(〒901-0152 沖縄県那覇市小禄1831-1 ☎ 098-859-6234)

<http://www.okinawa-sangyoushien.co.jp/>

2025年11月30日(日)  
November 30th (Sun), 2025

沖縄スタディーツアー

～平和ガイド(語り部)の方による案内～

訪問予定地

1. 嘉数高台(沖縄戦の激戦地/普天間基地を望む)
2. 沖縄国際大学(2004年米軍ヘリ墜落現場)
3. 佐喜真美術館(丸木位里・俊夫妻作「沖縄戦の図」展示)など



# 日本コミュニケーション学会九州支部 第32回大会

## 大会案内

1. 大会参加費 **【対面】無料 【ZOOM】無料**。
2. 九州支部会員の方は支部大会に必ずご出席ください。
3. 大会参加申込  
11月22日（土）までに下記のサイトからお申込みください。  
<https://forms.gle/fbkzRYNhXzLXJJbt5>  
※上記 URL をクリックしても Form にアクセスできない場合は、URL をブラウザの URL 欄にコピー&ペーストしてください。
4. お茶等を用意しています。
5. 懇親会  
懇親会費は 6000 円を予定しております。会費は当日受付にて納入してください。11月27日（木）以降に申し込みをキャンセルされた場合は会費の全額を申し受けます。
6. お問い合わせ先  
日本コミュニケーション学会九州支部事務局  
(九州支部事務局長)  
[kyushu\\_office@ml.jca1971.com](mailto:kyushu_office@ml.jca1971.com)

## ZOOM で参加される皆さまへ

1. 申込時にご登録いただいたメールアドレスに、大会参加に必要な情報（Zoom のミーティング ID など）をお送りします。11月26日（水）までに必要な情報が届いていない場合は、[kyushu\\_office@ml.jca1971.com](mailto:kyushu_office@ml.jca1971.com) へご一報ください。
2. 参加時のカメラは ON でも OFF でも結構です。
3. Zoom 上での表示名を「氏名（所属先）」にしてご参加ください。  
例) 日本 個美優（九州支部大学）  
入室後に自分の画像上で右クリックして「名前の変更」を選択すると、表示名を変更することができます。
4. マイクはミュートにし、ご発言の際のみ解除してください。
5. 発言の際は「手を挙げる」して司会から指名された後に、マイクのミュートを解除してご発言ください。発言後、「手を降ろす」してマイクをミュートに戻してください。
6. レコーディングは禁止します。
7. ミーティング URL とパスワードは第3者へ公開されないようお願いします。

## 会場で研究発表される皆さまへ

1. プロジェクターの機器とパソコンは会場に用意してありますので、データを USB メモリーに入れてご持参ください。また、研究発表までの時間に、ご自分で行ってください。
2. ハンドアウトを準備する場合は 30 部程度ご用意いただき、発表前に配布してください。また、発表時間は質疑応答を含めて 20 分です。発表時間は厳守してください。
3. やむを得ない事情で発表ができなくなった場合は速やかに大会実行委員までご連絡ください。

## スケジュール

- 12:10～ 受付(現地 1階)
- 12:30～12:35 開会式(会場:研修室304)  
支部長挨拶: 清宮 徹(西南学院大学)
- 12:35～13:05 **ポスター発表 (会場:研修室304)**  
  
Paradoxical Psychological Effects of Support Quality: An Empirical Study of Parents, Teachers, and Supervisors  
  
Michi Yoshimura Aichi Toho University  
  
頑なな心が溶けるとき: 猫問題をめぐる語りから  
  
五十嵐 紀子(新潟医療福祉大学)
- 13:05～14:15 **基調講演 (会場:研修室304)**  
  
13:05-14:00 「コミュ力」って何?～今さら聞けない、でも知りたい!～  
宮原 哲 先生(西南学院大学)
- 14:00-14:15 質疑応答  
司会:清宮 徹(西南学院大学)
- 14:20～14:30 **支部総会 (会場:研修室304)**  
  
司会:清宮 徹(西南学院大学)
- 14:30～15:30 **研究発表① (会場:研修室304)**  
  
司会:吉村 美路(愛知東邦大学)
- 14:30-14:50 「ママ友」概念をめぐる考察視点の検討: 表象研究との接続に先立って  
塙 幸枝(成城大学)
- 14:50-15:10 留学生への SRHR (Sexual Reproductive Health and Rights) 教育の認識に関する調査報告  
  
黒瀬 菜々(西日本短期大学)
- 15:10-15:30 沖縄県で暮らすフィリピン人女性たちのアイデンティティ形成について  
仲里 和花(沖縄キリスト教学院大学)

**15:35～16:15 研究発表②（会場:研修室304）**

**司会:吉武正樹（福岡教育大学）**

**15:35-15:55** 上司-部下コミュニケーションにおける AI 活用に関する研究領域の現状  
—日本的「曖昧な」職場文化と AI の「明確な」コミュニケーションの摩擦

**河村 まい香（明治大学）**

**15:55-16:15** ChatGPT を用いたディベート教育の検討

**上土井 宏太（熊本大学）**

**16:20～17:00 パネルディスカッション（会場:研修室304）**

**司会:友池梨紗（愛知淑徳大学）**

「大学院生×コミュニケーション学」の現在地と今後の展望

**16:20-16:30** 『博士課程学生』研究のスコーピングレビュー

**川野 優希・相澤 彩子（立教大学異文化コミュニケーション研究科）**

**16:30-16:45** 日本の大学院でコミュニケーションを学ぶということ—大学院生・若手  
研究者へのインタビュー調査を通して—

**郭 仁敬（西南学院大学文学研究科）**

**川野 優希（立教大学異文化コミュニケーション研究科）**

**16:45-17:00** 質疑応答・ディスカッション

**17:00～17:10 閉会式（会場:研修室304）**

**挨拶: 仲里 和花（沖縄キリスト教学院大学）**

**2025 年 11 月 30 日（日）**

沖縄スタディーツアー～平和ガイド（語り部）の方による案内～

**8:45 ゆいレール小禄駅に集合（解散も小禄駅に正午過ぎ）**

## 研究発表 要旨

### ポスター発表

**発表者** Michi Yoshimura Aichi Toho University

**タイトル** Paradoxical Psychological Effects of Support Quality: An Empirical Study of Parents, Teachers, and Supervisors

This study examines the paradoxical effects of support quality provided by figures in guiding roles—such as parents, teachers, and supervisors—on the recipient’s psychological responses. Although warm and empathetic support is generally believed to enhance comfort and motivation, support that exceeds an appropriate level—overly gentle or overprotective behaviors that go beyond genuine assistance—may unintentionally convey low expectations or doubt about the recipient’s competence. Such perceptions can reduce self-esteem and intrinsic motivation. This study explores how the “quality” of support affects psychological reactions across different relational contexts, including workplace and educational settings. Drawing on self-determination theory and the Golem effect, it seeks to clarify the conditions under which supportive behavior is interpreted as genuine encouragement versus a signal of low expectations. The findings are expected to provide insights into how effective support styles can be fostered across family, educational, and organizational environments.

**発表者** 五十嵐 紀子 (新潟医療福祉大学)

**タイトル** 頑なな心が溶けるとき：猫問題をめぐる語りから

ペット飼育は人々のウェルビーイングの向上に良い影響を与えているという報告も多い。一方で、猫の多頭飼育崩壊問題や、無責任な野良猫への餌やり問題は早期の介入が必須であり、かつ、最も困難であるとされている。本研究では、当事者へのインタビューにより、どのようなアプローチが有効か探ることを目的とする。野良猫に餌やりだけを行い、頭数管理や衛生面の管理などを行っていなかった住人による住民トラブルが発生しつつも、解決に向けて動き出すことに成功した地区を対象とした。行政と地域住民による地道な働きかけにより、問題を起こした住人が次第に心を開き、現在は地域の野良猫問題に協力的な姿勢を示すようになった。関わった人々にインタビューをすることで、どこがターニングポイントになったのか検証する。今回の発表では、行政の立場として関わった支援者へのインタビューから考察した結果を報告する。

### 研究発表①

**発表者** 塙 幸枝 (成城大学)

**タイトル** 「ママ友」概念をめぐる考察視点の検討：表象研究との接続に先立って

近年、「ママ友」という概念は、子育ての文脈で重要な位置づけを担っている。しかし、「ママ友」をテーマとした研究は極めて少なく、その社会的意味については十分な検討がなされていない。「ママ友とは何か」という大きな問いに対し、今後、表象分析の次元からアプローチしていくことを視野に入れつつ、本研究では、「ママ友」概念の発生および浸透の過程を整理するとともに、その考察視点の検討を目指す。とくに、「ママ友」という概念が緊張的な対人関係をもたらすネガティブなイメージと、協和的な対人関係をもたらすポジティブなイメージの両義性を有していることに着目し、「居場所」や「感覚的活動」といった概念との接続可能性を探る。

**発表者** 黒瀬 菜々 (西日本短期大学)

**タイトル** 留学生への SRHR (Sexual Reproductive Health and Rights) 教育の認識に関する調査報告

近年、日本に在住する留学生や技能実習生が妊娠・出産に関する情報にアクセスできず、孤立出産や自殺に至る事例が報告されている。さらに強制帰国は法的に認められていないにもかかわらず実際には行われ、人権侵害を招いている。こうした事態を防ぐためには、性と生殖に関する健康と権利 (SRHR) の教育が不可欠である。今回の調査では留学生を対象に授業を行い、インタビューを実施した。その結果、多くの留学生が授業を「役立つ」と捉え、不安の軽減や安心感につながる事が明らかとなった。本発表ではその成果を報告する。今後は、日本の受け入れ側に根強く残る性教育の遅れや、日本語教師から聞かれる妊娠・出産に対する否定的な声に着目し、SRHR 教育をめぐる意味づけをコミュニケーション学の視点から明らかにし、留学生や技能実習生の孤立防止に資することを旨とする。

**発表者** 仲里 和花 (沖縄キリスト教学院大学)

**タイトル** 沖縄県で暮らすフィリピン人女性たちのアイデンティティ形成について

本研究の目的は、沖縄県で暮らすフィリピン人女性たちが、妻、母親、娘、就労者、フィリピン人、沖縄人、クリスチャンとしての多面的アイデンティティを形成しながら、沖縄社会に適応している過程を明らかにすることで、沖縄在住外国人が抱える異文化適応の課題を浮き彫りにすることである。本研究では、沖縄県中南部に在住する 5 名のフィリピン人女性にインタビュー調査を行い、社会的構築主義の理論的枠組みで、ナラティブ・アプローチの手法を用いて分析、考察を行った。その結果、調査対象者は、沖縄社会で適応していく過程で、母親として、妻として、アイデンティティ危機を経験しながらも、沖縄の嫁ぎ先家族、親戚、友人に支えられて、その危機を乗り越えており、「成長」過程を通して、複合的・多面的なアイデンティティを形成していた。これらの結果をさらに深く分析し、在沖フィリピン人女性の異文化適応の課題について考察していく。

## 研究発表②

**発表者** 河村 まい香 (明治大学)

**タイトル** 上司-部下コミュニケーションにおける AI 活用に関する研究領域の現状—日本的「曖昧な」職場文化と AI の「明確な」コミュニケーションの摩擦

本研究は、上司-部下コミュニケーションにおける AI 活用に関する国際的研究の潮流を整理し、日本的職場文化との関係性を検討することを目的とする。既存研究は、(1)AI によるマネジメント機能の変革と代替、(2)AI を介したコミュニケーションと相互作用の影響、(3)AI が従業員の行動・心理に与える影響と緩衝要因の三領域に整理される。AI は監督・支援・学習促進など上司機能を代替する一方で、情緒的配慮や関係的調整を要する領域で課題が残る。日本的職場文化は、指示や責任の範囲が曖昧で、間接的表現や場面依存的な言語作法を重んじる点に特徴があり、AI がもたらす可視的で効率化されたコミュニケーションとの間に構造的摩擦をはらむ。本発表では、こうした文化的特徴と AI の関与する上司-部下コミュニケーションの特性を整理し、AI 時代における上司-部下関係の再構築に向けた論点を提示する。

**発表者** 上土井 宏太 (熊本大学)

**タイトル** ChatGPT を用いたディベート教育の検討

近年、2022 年の ChatGPT 登場以降、教育や研究の分野で ChatGPT を活用する試みが急速に広がっている。英語教育においては、ChatGPT が質の高いフィードバックを提供できることが示されており、その正確性の検証や、人間教師によるフィードバックとの比較など、さまざまな角度から研究が進められている。一方で、ディベートをはじめとする「議論教育」における ChatGPT の活用は、まだ十分に検討されていない。本発表では、ChatGPT を用いたディベート教育の実践を通して、その利点と課題を分析する。特に、学生が最も抵抗を感じやすい「相手の意見への反論」の場面に焦点を当て、ChatGPT を活用した場合にどのような効果や限界が見られるのかを報告する。これらの分析をもとに、今後の議論教育における ChatGPT の有効な活用方法について考察する。

## パネルディスカッション

発表者 相澤 彩子（立教大学異文化コミュニケーション研究科）

郭 仁敬（西南学院大学文学研究科）

川野 優希（立教大学異文化コミュニケーション研究科）

タイトル 「大学院生×コミュニケーション学」の現在地と今後の展望

2000年代以降、「コミュニケーション」を冠する学部・研究科が増え、日本の大学でコミュニケーション学を専攻する大学院生も見られるようになった。その背景には、米国で研鑽を積んだ研究者が日本に知見を持ち帰り、国内においても体系的にコミュニケーション学を学ぶ環境が整えられてきたことがある。そこで、本パネルでは、「大学院生」と「コミュニケーション学」という2つの側面から、日本のコミュニケーション学の現在地と今後の展望を検討したい。第一発表者の川野・相澤は、博士課程学生を対象とした既存研究を整理し、これまで博士課程学生がどのように論じられてきたのかを明らかにする。続いて、第二発表者の郭・川野は、日本の大学院でコミュニケーション学を専攻とする博士課程学生および若手研究者を対象としたインタビュー調査の結果から、日本の大学院でコミュニケーション学を学ぶことに対する意味づけを探る。「大学院生」と「コミュニケーション学」の2つの側面に着目することで、日本のコミュニケーション学の現状理解を深めるとともに、コミュニケーション学のこれからについて議論を喚起したい。